

ワンポイントアドバイス：「コミュニケーション」

子供たちとの対話、保護者・地域の方々との交流、教員同士のかかわりなど、教員としてコミュニケーション力が求められる場面は多くあります。ここでは、基本となるコミュニケーションについて、少し考えてみましょう。

1 まず教員から

子供たち一人一人が、安心して自分を表現できるようにするためには、学級経営が大切です。そのためにも、あいさつが自然に口をついて出る学級、心のこもった言葉のやり取りができる学級にしたいものです。人間関係の第一歩は「あいさつ」から始まる、とも言われます。子供たちに語りかける教員自らの言葉や態度、「おはようございます」「また明日ね」との明るい声、子供の顔を見て進んで声をかける、子供を教室で迎える、休み時間は子供と遊ぶ。いずれも大切なことです。

2 思いを伝えるために

適切な言葉遣いや敬語表現を身に付け、相手を尊重し思いやりをもちながら、状況に応じて会話を進めましょう。また、誰にでもわかりやすい言葉を選び、声のトーンや速さなどに気を配り、一方的に思いを押し付けずに相手の様子を見つつ双方向で会話を進めることが大切です。大勢の人に向けて話すときには、全体を見渡し視線を配りつつ、自分の言葉を届けたいとの思いをもって語尾までしっかりと伝えましょう。



3 言葉以外のコミュニケーション

言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、姿勢など、言葉以外のコミュニケーションも大切です。相手の話をうなずきながら聞いたり、体を向けて視線を合わせながら聞いたりすることは受容感を高めます。また、子供の表情や態度から、抱えている悩みや異変にいち早く気付くことができるようにすることも、今の時代の教員に必要な能力のひとつです。朝の健康観察では、出席をとる時の返事の仕方、表情や服装にも気を配りましょう。そして、一日一回は全ての子供に声をかけるように心がけましょう。子供をありのままに見ようとすること、聴こうとすること、言おうとしていることを感じようとすることが大切です。

4 授業におけるコミュニケーション

授業において、教員に必要とされるコミュニケーション力のひとつは、学習のねらいや方法を分かりやすく伝える力です。また、授業を子供たちと教員が共に創り上げるとき、教員が説明しすぎることなく、子供たちの考えを引き出したり、結び合わせたり、価値付けたりする力が必要になってきます。手を挙げている子供を指名するだけでなく、支援が必要な子供を表情から見取ったり、言葉にならない考えを机間指導しながら対話によって引き出したりするなど教員の役割は多岐にわたります。授業におけるコミュニケーションの基本は、一人一人の考えと、子供同士のかかわり合いを大切にしながら、より良い問題解決へ導こうとする教員の姿勢だと言えます。

